

## Ⅶ 平成25年宮城県の経済動向

## 概況

平成25年の宮城県経済を振り返ると、生産は、平成23年3月に発生した東日本大震災（以下「震災」という。）から回復してきたが、年央には減少に転じ、年末には持ち直しに向けた動きがみられたものの、鉱工業生産指数（原指数）は、電子部品・デバイス工業などの低下により、2年ぶりの低下となった。住宅投資は貸家及び持家を中心に増加した。公共投資は高水準で推移したものの、3年ぶりの減少となった。個人消費は、大型小売店販売額は2年ぶりの減少となった。また、乗用車は、年末には消費税増税の駆込需要などで上昇したものの、3年ぶりの減少となった。消費者物価指数は、生鮮野菜、電気代、自動車等関係費などの値上がりにより上昇した。雇用は、引き続き高水準で推移した。企業倒産は件数、負債額ともに2年ぶりの増加となった。

### 主要経済指標の推移（前年比，前年同期比）

	平成21年	22	23	24	25	26					
						1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	
生産	鉱工業生産指数※1	▲23.2	5.7	▲29.3	36.8	▲2.1	10.5	▲7.2	▲12.7	3.8	-
	大口電力使用量	▲16.2	11.5	▲31.4	18.8	3.7	▲3.0	3.5	5.4	▲3.0	-
建設投資	新設住宅着工戸数	▲25.2	10.6	▲0.1	62.3	17.2	13.6	46.6	5.2	9.5	-
	公共工事請負金額※3	30.7	▲30.6	130.4	84.2	▲7.6	11.1	1.3	▲3.5	▲29.5	11.5
消費	大型小売店販売額	▲4.4	▲3.2	2.8	4.1	▲2.2	▲3.9	▲2.1	▲2.6	▲0.2	-
	乗用車（軽含）新車登録台数	▲5.1	7.6	3.2	17.2	▲4.4	▲12.6	▲11.9	▲1.3	15.1	-
物価	仙台市消費者物価指数※2 （生鮮食品を除く総合指数）	▲1.7	▲0.8	▲0.7	▲0.5	0.7	▲0.1	0.3	1.0	1.6	-
雇用	有効求人倍率※4	▲0.27	0.03	0.17	0.43	0.22	0.35	0.20	0.15	0.12	-
	実質賃金指数※2・5	▲5.2	6.3	8.4	▲8.9	2.2	1.6	6.5	▲4.0	2.3	-
倒産	企業倒産件数	▲15.4	2.5	▲43.6	▲25.0	43.5	42.1	180.0	▲9.1	33.3	-

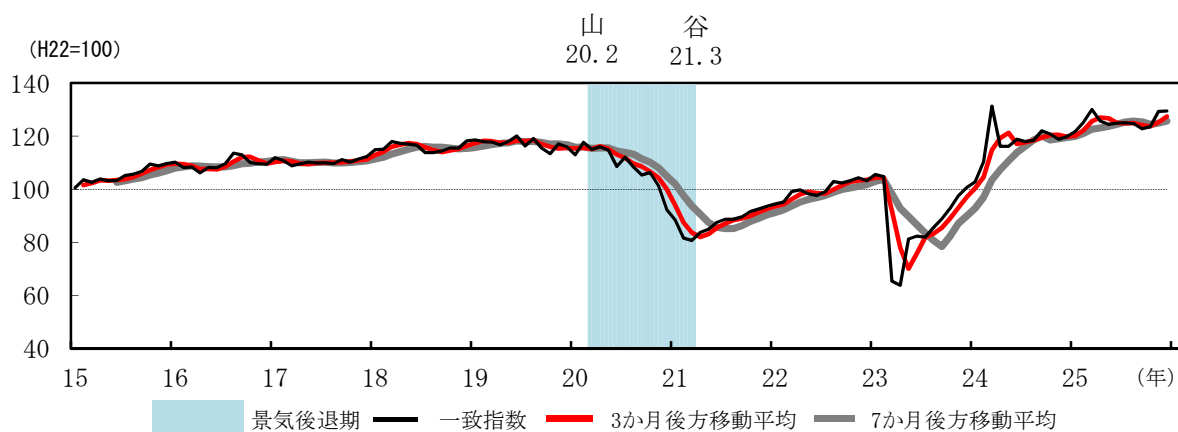
※1 鉱工業生産指数，仙台市消費者物価指数，実質賃金指数は平成22年=100

※2 公共工事請負金額は，年度値

※3 有効求人倍率については，前年（同期）差，単位はポイント

※4 実質賃金指数は，事業所規模30人以上，製造業，現金給与総額

### 景気動向指数（CI）一致指数の推移



(資料:宮城県統計課)

# I 生産

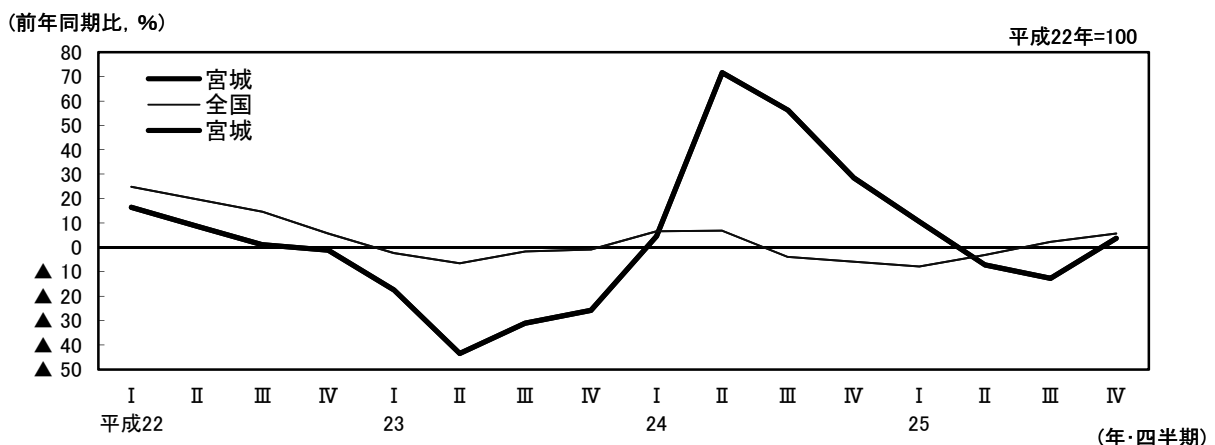
## (1) 鉱工業生産指数

平成25年の鉱工業生産指数(原指数)は94.7(平成22年=100)で、前年比2.1%の低下となった。業種別の前年比をみると、金属製品工業、化学、石油・石炭製品工業、パルプ・紙・紙加工品工業など全18業種中12業種が上昇となり、電子部品・デバイス工業など6業種が低下となった。

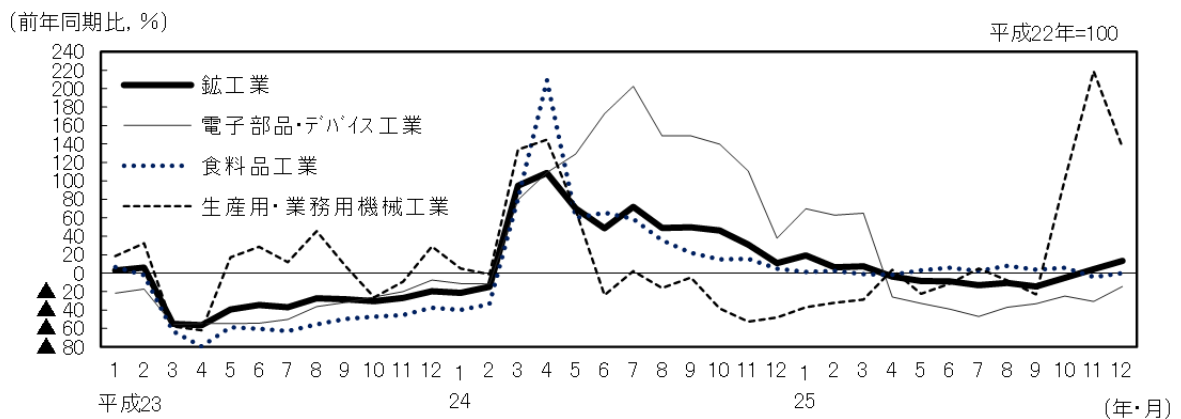
四半期別に年間の推移をみると、第1四半期は、前年同期比は10.5%上昇した。第2四半期は、電子部品・デバイス工業などの減少のため、6期ぶりに低下に転じ、第2四半期及び第3四半期は前年同期を下回った。第4四半期は、生産用・業務用機械工業などの増加のため、3.8%上昇となり、持ち直しに向けた動きがみられた。

ウエイトの大きい業種を中心にみると、電子部品・デバイス工業は、第一四半期は、前年比は65.7%上昇したが、第2四半期以降前年同期を大きく下回り、前年比は18.4%低下し、2年ぶりの低下となった。食料品工業は、年間を通じて前年同期を上回り、前年比は1.9%上昇し、2年連続の上昇となった。生産用・業務用機械工業は、第1四半期から第3四半期までは、前年同期を下回ったものの、第4四半期は前年同期を上回り、前年比は4.0%上昇し、2年ぶりの上昇となった。

四半期別鉱工業生産指数(原指数・前年同期比)の推移(宮城県, 全国)



月別宮城県鉱工業生産指数(原指数・前年同期比)の推移



(資料:宮城県統計課)

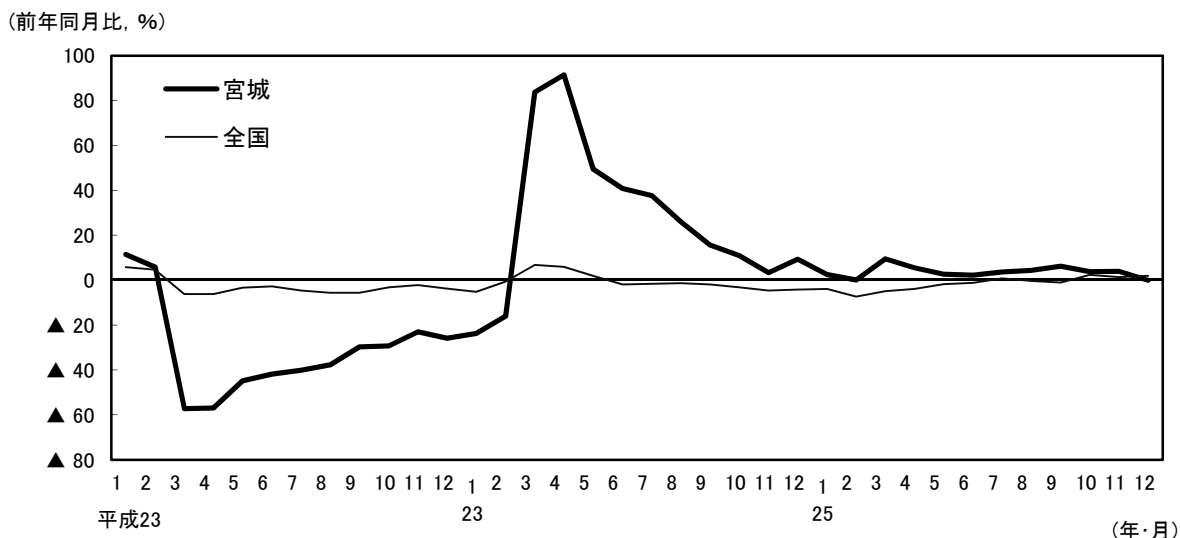
## (2) 大口電力使用量

平成25年の大口電力（契約電力500kW以上）使用量は36億4,422万 kWh で、前年比3.7%の増加となり、2年連続で増加となった。

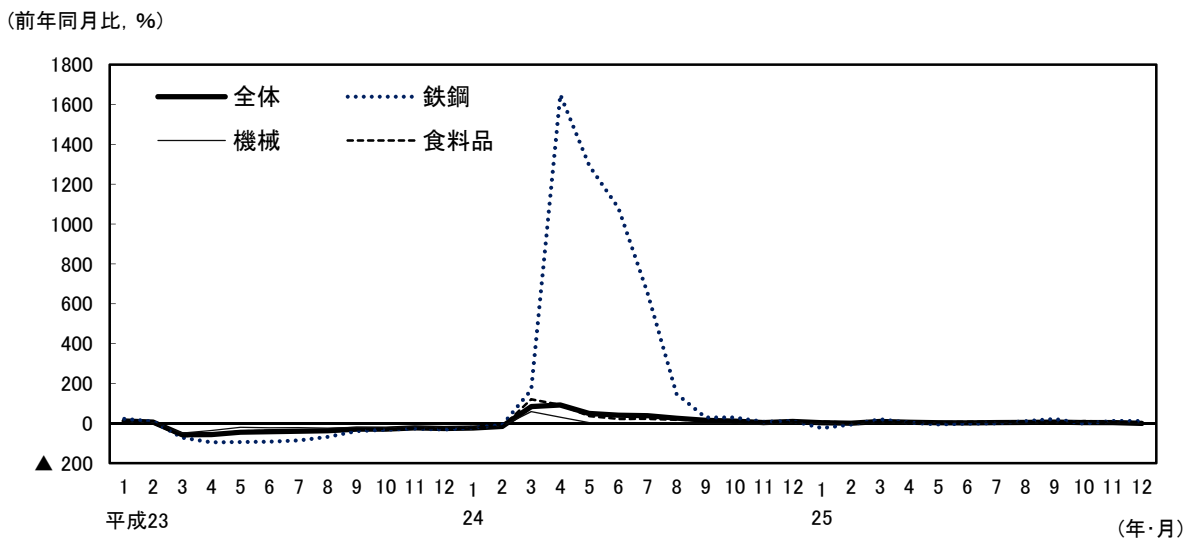
四半期別に年間の推移をみると、年間を通じて前年同期を上回った。

主要業種別にみると、食料品分野は年間を通じて前年同期を上回り、前年比は6.7%増加となり、2年連続の増加となった。機械分野は年間を通じて前年同期を上回り、前年比は2.5%増加となり、2年連続の増加となった。鉄鋼分野は第一四半期と第二四半期で前年同期を下回ったが、前年比は3.1%増加となり、2年連続の増加となった。

大口電力使用量（前年同月比）の推移（宮城県、全国）



月別業種別大口電力使用量（前年同月比）の推移（宮城県）



(資料:(株)東北電力宮城支店)

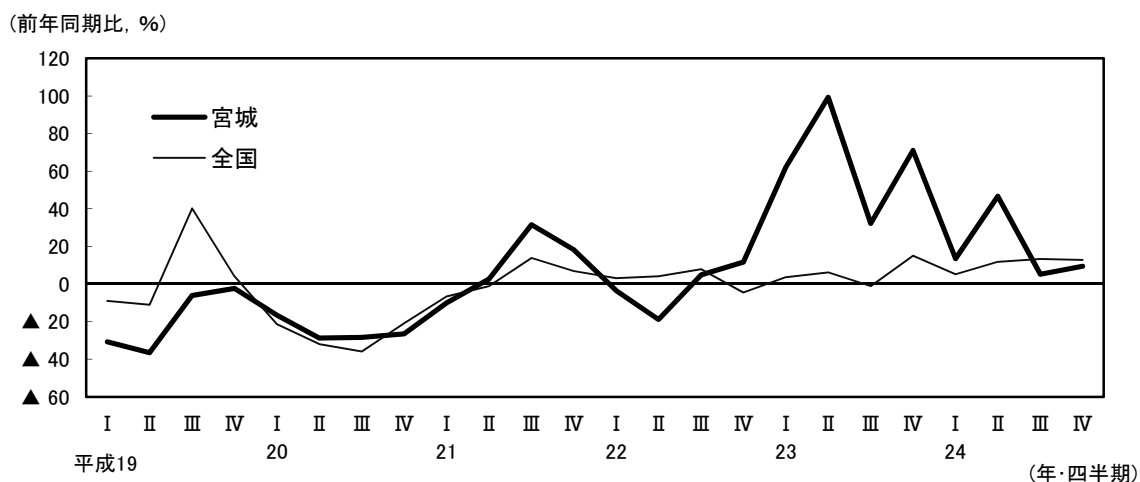
## II 建設投資

### (1) 新設住宅着工戸数

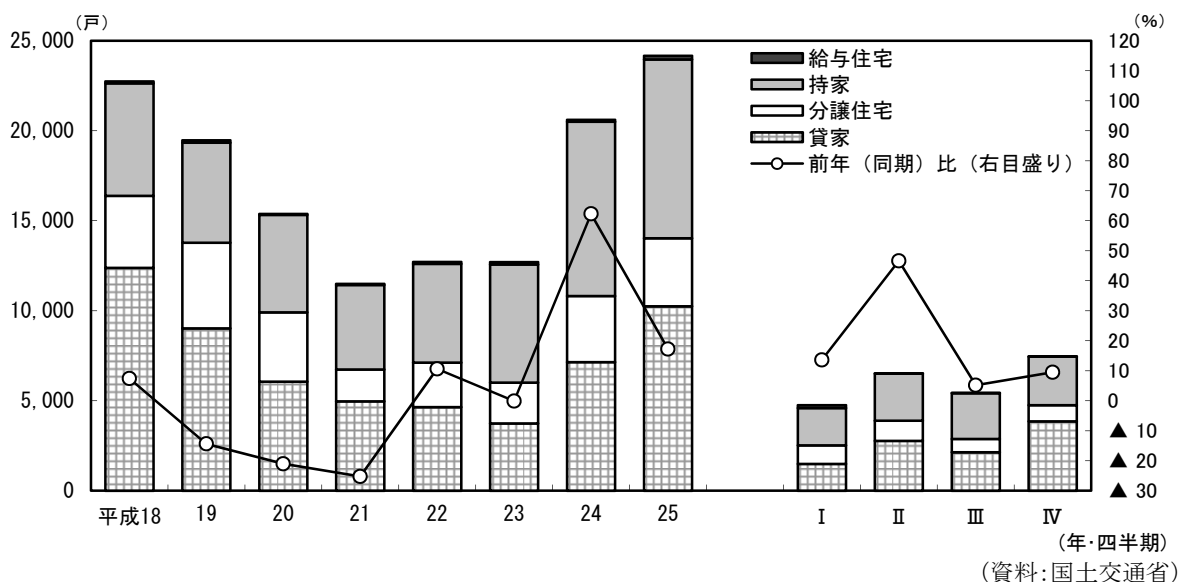
平成24年の新設住宅着工戸数は2万4,163戸で前年比17.2%の増加となり、2年連続の増加となった。四半期別に年間の推移をみると、年間を通じて前年同期を上回った。

利用関係別にみると、貸家（建築主が賃貸する目的で建築するもの）は、前年比は43.5%の増加となり、2年連続の増加となった。貸家の構成比は42.4%となり、4年ぶりに40%を上回った。持家（建築主が自分で居住する目的で建築するもの）は、第1四半期、第3四半期及び第4四半期は前年同期を下回ったものの、第2四半期が前年同期を大きく上回ったため、前年比で2.5%増加となり、4年連続の増加となった。持家の構成比は41.1%となり、5年連続で40%を上回った。分譲住宅（建売または分譲の目的で建築するもの）は、一戸建てが年間を通じて前年同期を上回り、マンションが第2四半期以外は減少したものの、前年比は3.0%の増加となり、2年連続の増加となった。分譲住宅の構成比は15.7%となり、5年連続で20%を下回った。

新設住宅着工戸数（前年同期比）の推移（宮城県，全国）



利用関係別新設住宅着工戸数の推移（宮城県）



## (2) 公共工事請負金額

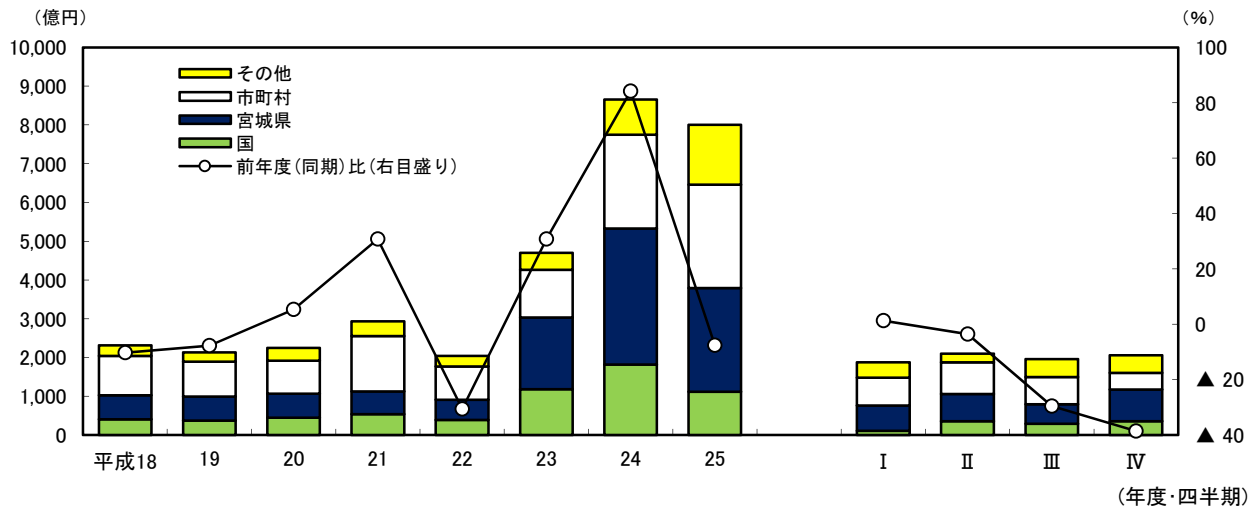
平成25年度の公共工事請負金額は8,001億円で、前年度比7.6%の減少となり、3年ぶりの減少となった。

年度間の推移をみると、第1四半期（平成25年4～6月）と第4四半期（平成26年1～3月）は前年同期を上回ったものの、他の期間は前年同期を下回った。

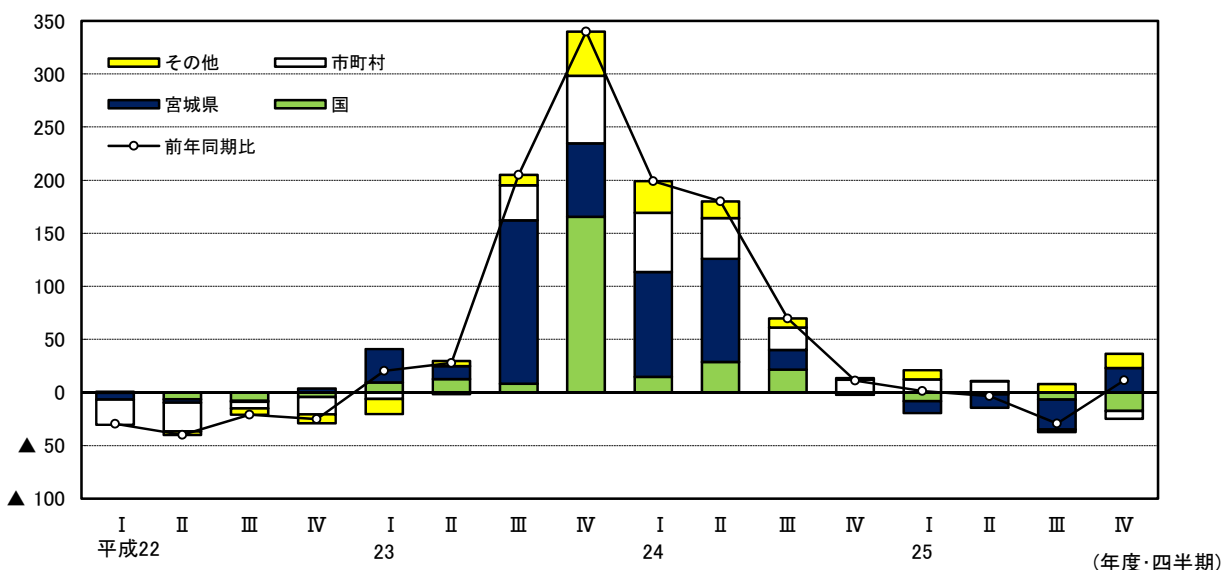
発注者別にみると、国は年度間を通じて前年同期を下回り、前年度比は38.7%の減少となった。宮城県は、第4四半期は前年同期を上回ったものの、他の期間は前年同期を下回ったことから、前年度比は23.8%の減少となった。市町村は、第3四半期（平成25年10月～12月）と第4四半期は前年同期を下回ったものの、第1四半期と第2四半期（平成25年7～9月）は前年同期を上回ったことから、前年度比は10.5%の増加となった。

※公共工事請負金額は、年度をベースにしているために動向や資料は年度を基準としています。

### 発注先別公共工事請負金額の推移



### 四半期別発注先別公共工事請負金額（寄与度）の推移



(資料: 東日本建設業保証(株))

### Ⅲ 個人消費

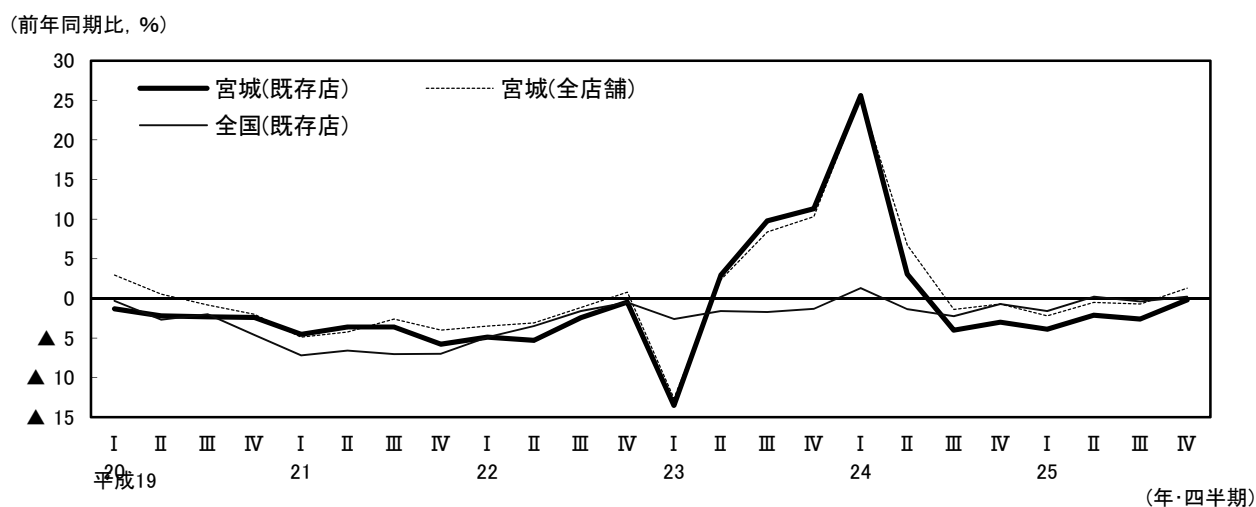
#### (1) 大型小売店販売額

平成25年の大型小売店販売額は、4,216億600万円で、既存店比較の前年比は2.2%の減少となり、2年ぶりの減少となった。また、全店舗比較の前年比は0.5%の減少となり、2年ぶりに減少となった。

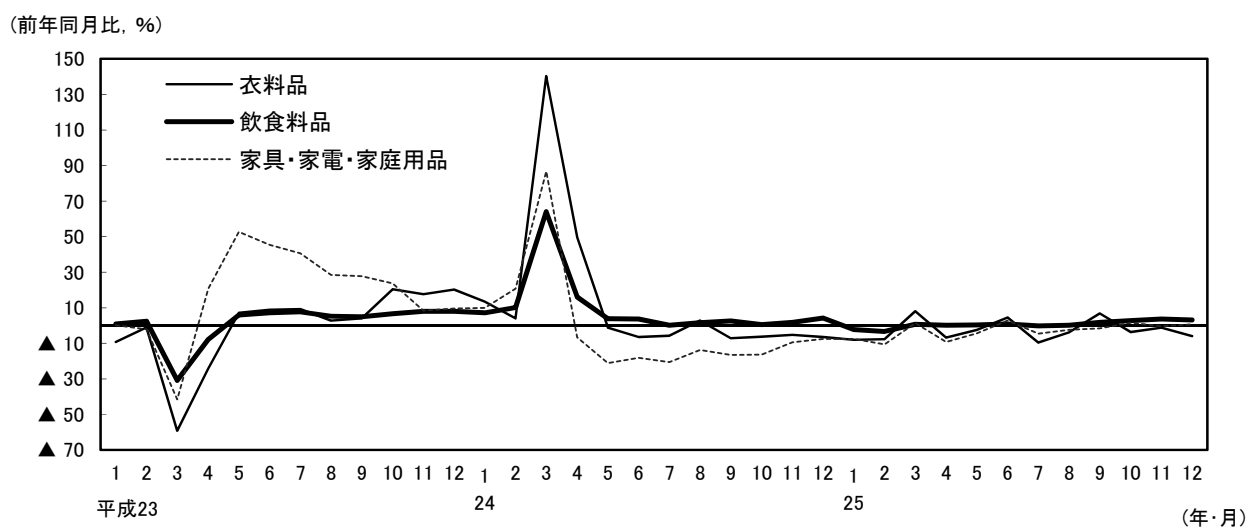
四半期別に年間の推移をみると、年間を通じて前年同期（既存店比較）を下回った。

商品別にみると、衣料品は年間を通じて前年同期を下回り、前年比は2.8%の減少となった。身の回り品は第2四半期以降、前年同期を下回り、前年比は2.9%の減少となった。家具・家電・家庭用品は、第4四半期は前年同期を上回ったものの、その他の期間は下回り、前年比は2.9%の減少となった。

大型小売店販売額（前年同期比）の推移（宮城県，全国）



月別商品別大型小売店販売額（前年同月比）の推移（宮城県）



(資料: 東北経済産業局)

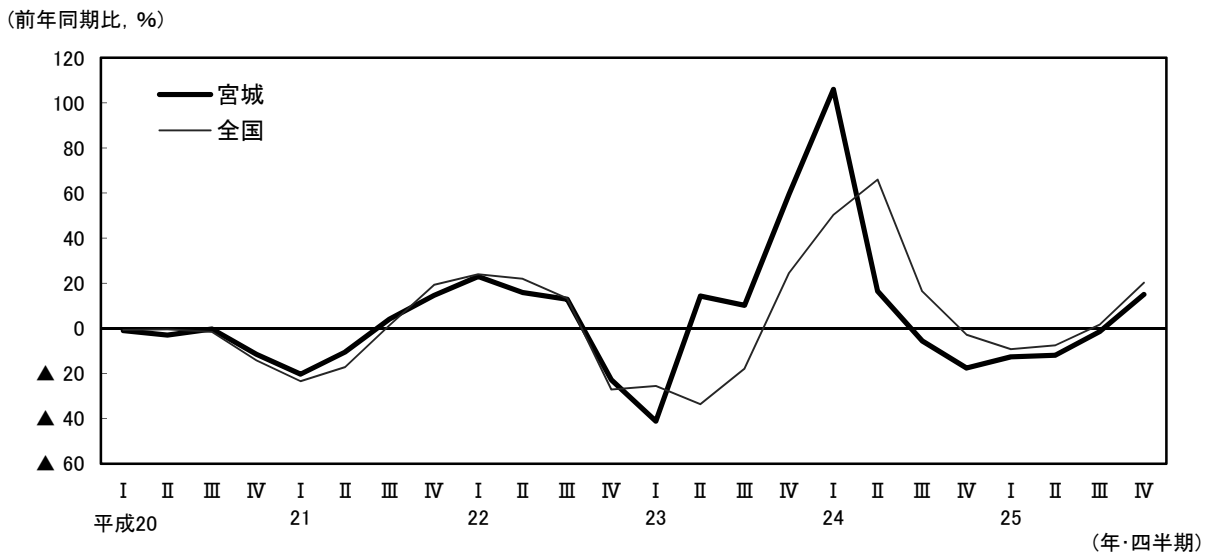
## (2) 乗用車新車登録台数

平成 25 年の軽自動車の新車届出台数を合わせた乗用車新車登録台数は 9 万 5,034 台で、前年比 4.4%の減少となり、4 年ぶりの減少となった。

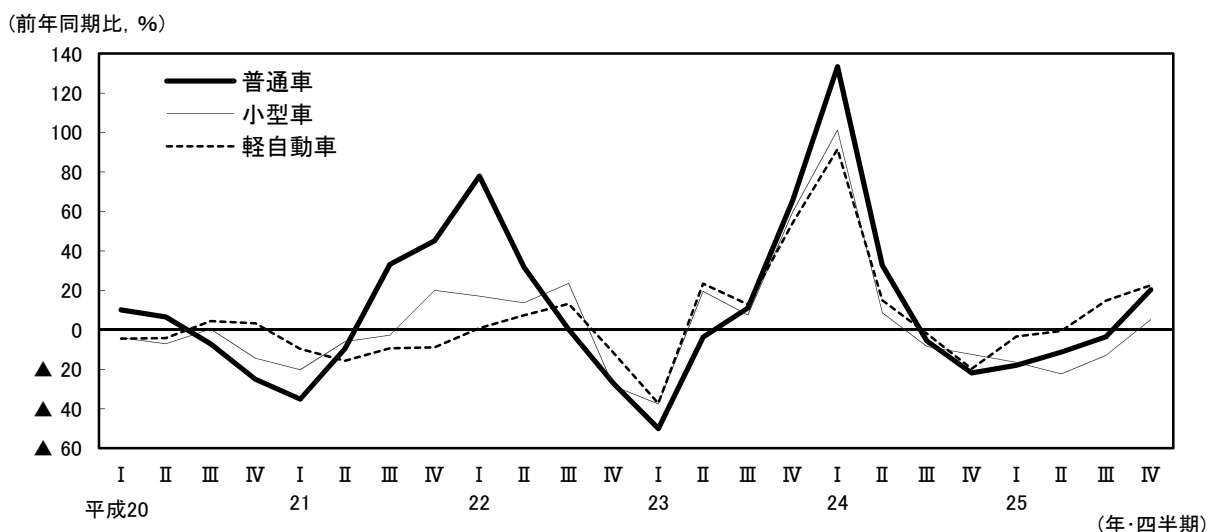
四半期別に年間の推移をみると、第 4 四半期は、消費税増税の駆込需要などにより前年同期を上回ったものの、その他の期間は前年同期を下回った。

車種別にみると、普通車は、第 4 四半期は前年同期を上回ったが、その他の期間は前年同期を下回ったため、前年比は 5.7%減少し、2 年ぶりの減少となった。小型車も同様に第 4 四半期は前年同期を上回ったが、その他の期間は前年同期を下回ったため、前年比は 12.8%減少し、4 年ぶりの減少となった。軽自動車は、第 1 四半期と第 2 四半期は前年同期を下回ったが、第 3 四半期と第 4 四半期は前年同期を上回ったため、前年比は 6.5%増加し、4 年連続の増加となった。

乗用車新車登録台数（前年同期比）の推移（宮城県，全国）



車種別乗用車新車登録台数（前年同期比）の推移（宮城県）



(資料：自動車販売協会連合会宮城県支部，全国軽自動車協会連合会)



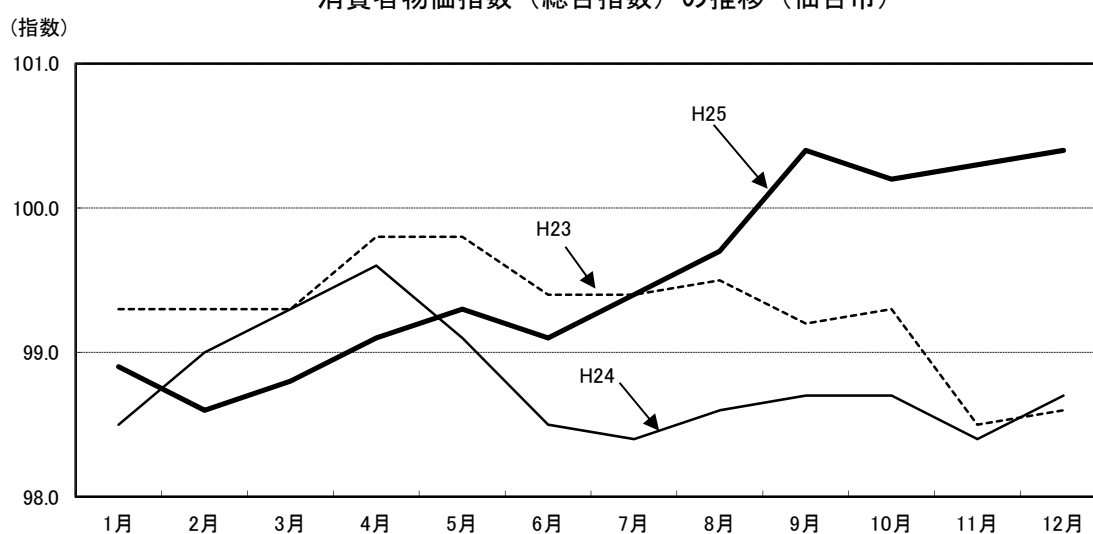
## IV 物 価

平成 24 年平均仙台市消費者物価指数（平成 22 年＝100）は、総合指数が 99.5 で、前年比 0.7% の上昇となり、5 年ぶりの上昇となった。生鮮食品を除く総合指数は 99.5 で、前年比 0.7% の上昇となり、5 年ぶりの上昇となった。

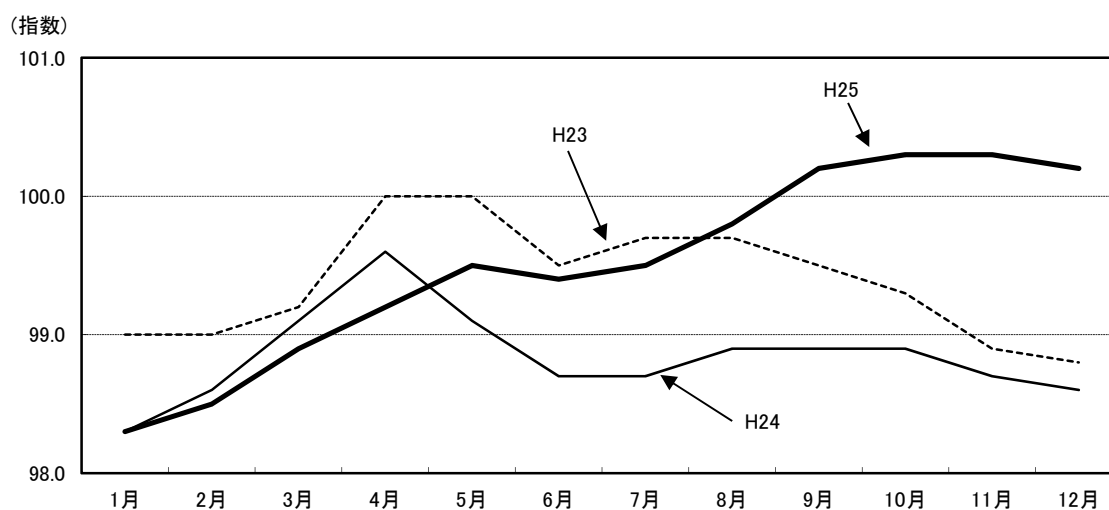
年間の動きをみると、電気代、自動車等関係費、他の光熱、ガス代、他の諸雑費の値上がりなどにより 5 年ぶりに上昇した。

月別に要因をみると、生鮮野菜、自動車棟関係費、電気代などの値上がりの影響により 2 月、3 月、4 月を除き前年同月の水準を上回って推移した。2 月、3 月、4 月は生鮮野菜、教養娯楽用耐久財などの値下がりの影響により前年同月の水準を下回って推移した。

消費者物価指数（総合指数）の推移（仙台市）



消費者物価指数（生鮮食品を除く総合指数）の推移（仙台市）



(資料:宮城県統計課)

## V 雇 用

### (1) 有効求人倍率及び新規求人倍率

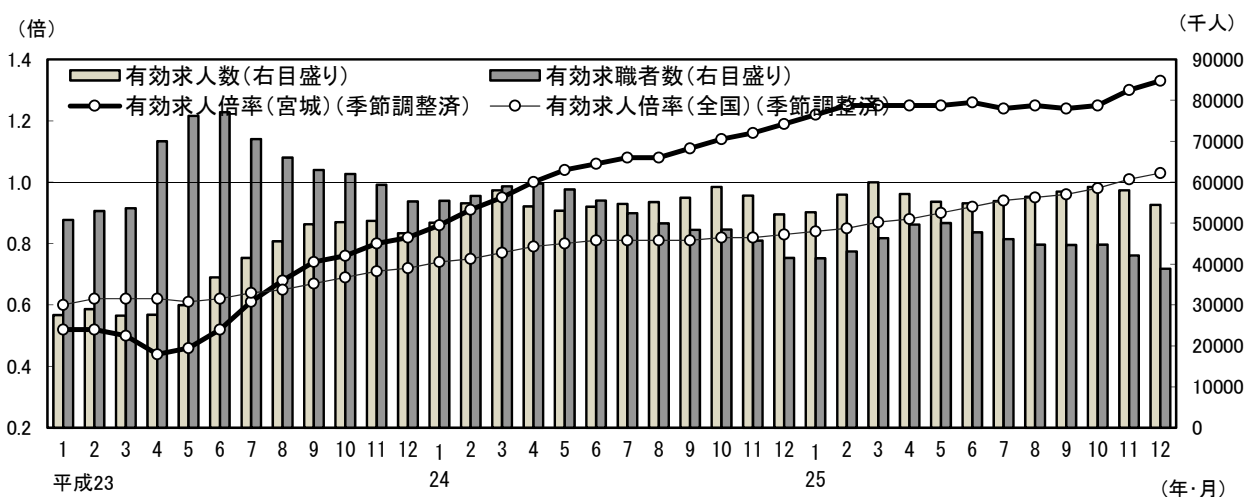
平成25年の有効求人人数(年平均)は5万6,450人で、前年比3.0%の増加となった。有効求職者数(年平均)は4万4,951人で、前年比14.5%の減少となった。これにより、有効求人倍率(原指数)は1.26倍で前年から0.22ポイント上昇し、4年連続の上昇となった。

四半期別に年間の推移をみると、有効求人人数は、年間を通じて前年同期を上回った。有効求職者数は、年間を通じて前年同期を下回った。有効求人倍率(原指数)については、年間を通じて前年同期を上回った。

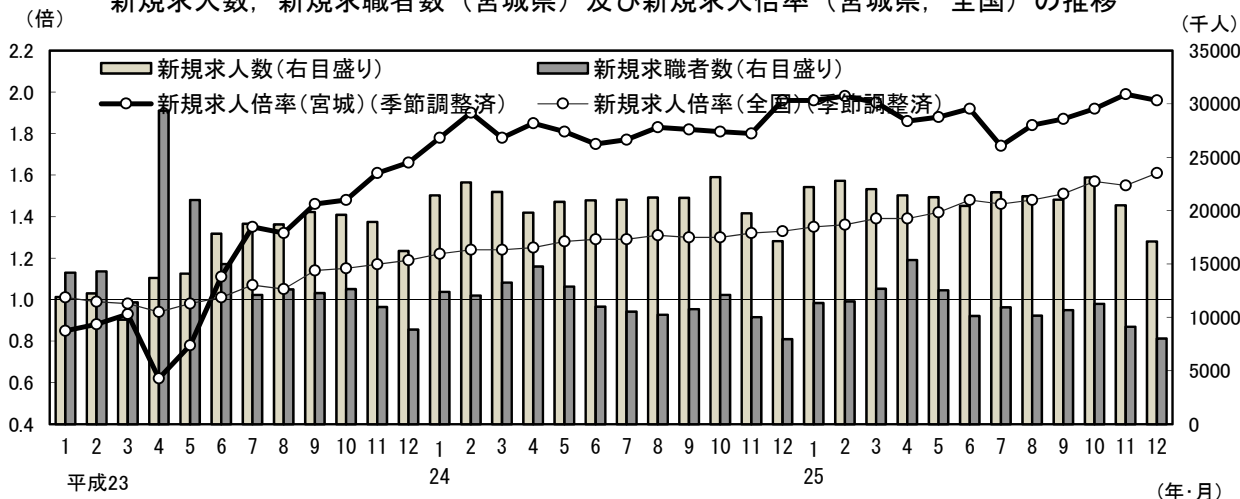
また、新規求人人数(年平均)は2万1,249人で、前年比1.6%の増加となった。新規求職者数(年平均)は1万1,143人で、前年比3.1%の減少となった。これにより、新規求人倍率(原数値)は1.91倍で前年から0.09ポイント上昇し、4年連続の上昇となった。

四半期別に年間の推移をみると、新規求人人数は、年間を通じて前年同期を上回った。新規求職者数は、第3四半期は上昇したものの、その他の期間は前年同期を下回った。新規求人倍率(原数値)については年間を通じて前年同期を上回った。

有効求人人数、有効求職者数(宮城県)及び有効求人倍率(宮城県, 全国)の推移



新規求人人数、新規求職者数(宮城県)及び新規求人倍率(宮城県, 全国)の推移



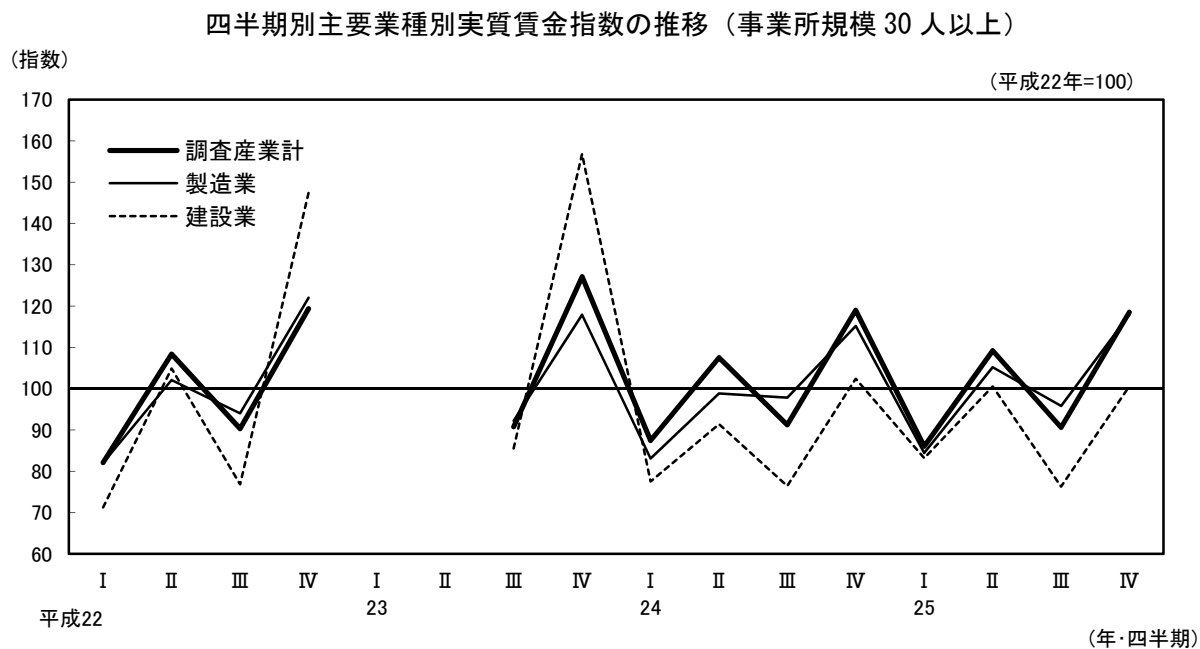
(資料:宮城労働局)

## (2) 賃金

平成 25 年の実質賃金指数（平成 22 年=100）の調査産業計（事業所規模 30 人以上）は 101.1 で、前年比 0.2%の低下となった。

年間の推移をみると、第 2 四半期は、前年同期を上回ったものの、その他の期間は、前年同期を下回った。

主要業種別に年間の推移をみると、製造業（事業所規模 30 人以上）は、第 3 四半期は前年同期を下回ったが、その他の期間は上回ったことから、前年比 2.2%の増加となった。建設業（事業所規模 30 人以上）は、第 3 四半期以降、前年同期を下回ったものの、その他の期間は、前年同期を上回ったことから、前年比 3.7%の上昇となった。



(資料:宮城県統計課)

## VI 企業倒産

平成25年の宮城県内の企業倒産（負債総額1千万円以上）の件数は99件で、前年比43.5%の増加となり、3年ぶりの増加となった。負債総額は192億6,100万円で、前年比46.7%の増加となり、3年ぶりの増加となった。

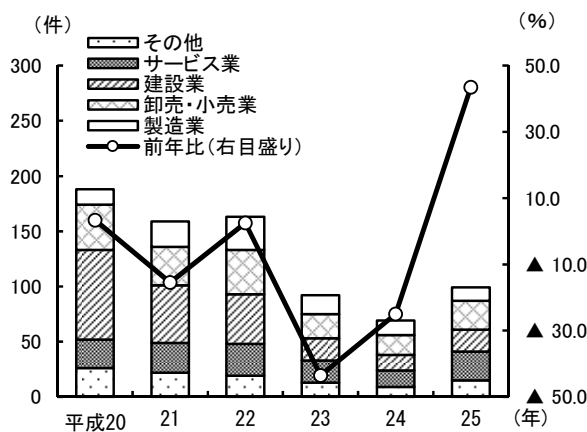
これらのうち、不況型倒産（販売不振、売掛金回収困難、赤字累積を原因とする倒産）の件数は69件で、前年比43.8%の増加となり、3年ぶりの増加となった。全体に占める不況型倒産の構成比は69.7%となった。

大型倒産の状況は、件数が4件で前年より2件の増加、負債総額は75億6,200万円で前年比100%の増加となった。

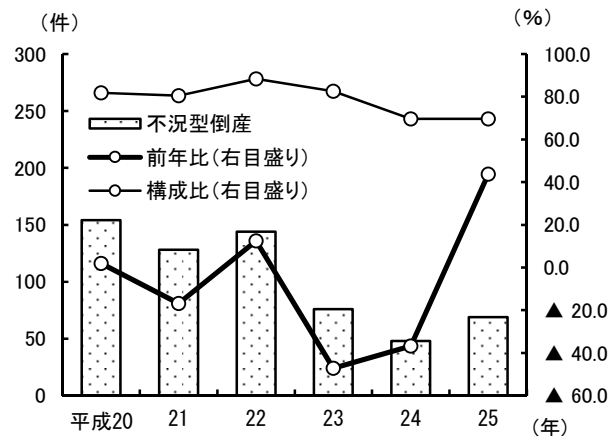
業種別に倒産件数をみると、卸・小売業とサービス業が26件で最も多く、次いで、建設業の20件、製造業の12件と続く。

原因別に倒産件数をみると、販売不振の57件が最も多く、次いで、赤字累積・その他の29件、他社倒産の余波の7件、放漫経営が5件と続く。

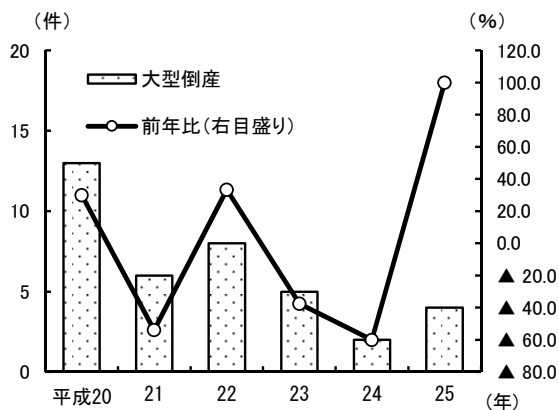
業種別倒産件数と前年比の推移



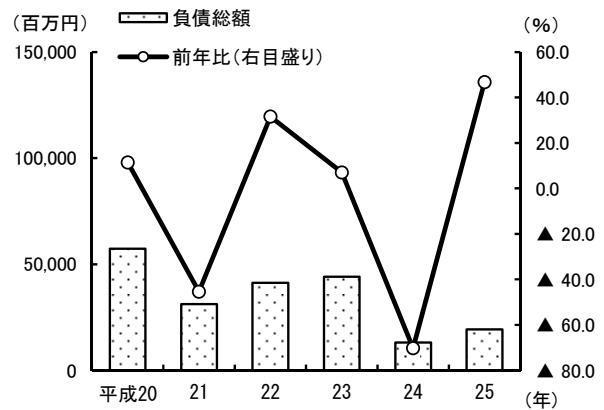
不況型倒産件数と前年比、構成比の推移



大型倒産件数と前年比の推移



負債総額と前年比の推移



(資料: (株)東京商工リサーチ)